

あさひの日だまり

令和5年11月10日（金）

NO.27

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果から～

今日のお便りでは、本年度4月18日に行われた「全国学力・学習状況調査」の本校における結果を分析してみました。昨年度も同様の調査を6年生対象に実施しております。質問内容も違っているために多少の数値の違いや回答内容の違いはありますが、昨年度の6年生と今年度の6年生の様子は似ているように思います。

ただ、2つの学年だけを比較して似ているからと言って他の学年の子どもたちの傾向も似ているかという一概にそうは言えないかもしれません。ただ、それぞれの教室の授業の様子を見させてもらっていると、何となく本校の子どもたちの姿には共通したものを感じます。もしかすると、その共通点が調査の結果に表れているのかもしれないと思います。

ひとまず、今年度の結果の概要と現在取り組んでいることをお示ししますので、それもふまえてお読みいただけたら幸いです。

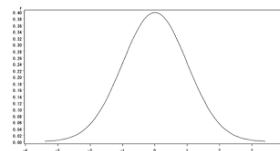
1 国語と算数に関する調査結果

【国語問題】

平均正答率は、全国や県よりやや上回っている部分が多いです。全国や県よりも下回っている項目では「漢字、語彙、表現の技法、音読・朗読」と「書くこと」に関する正答率が低いことがわかりました。

【算数問題】

平均正答率は、ほぼ全国や県と同様ですが、よりやや下回っている部分が見られます。特に記述式では、全国や県よりもやや下回っていることがわかりました。一方で、8割以上の子どもたちが「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と質問紙で答えており、諦めずに最後まで頑張れる点は子どもたちのすごい所です。



【点数の分布】

2教科とも点数の分布が右のような一般的な形ではなく、国語は富士山の山のような台形に、算数は山が2つに分かれる2極化になっている。そのことから、得点力にやや差が見られるということがわかります。

2 本校児童の課題と授業において配慮したいこと

<国語>

結果から本校の児童の課題として示されたこと

- ・文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけ出すことができる。
- ・自分の考えが伝わるように図表やグラフを用いて工夫できる。

(1) 「書く力」を育てるために

- ・文章を書く時には、「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を考えて書くよう指導してきました。今後は、それに加えて、感想や要旨などを100字以内など決まった字数内で書くことができるよう練習しています。
- ・「自分の考えたことや伝えたいことなど、目的や意図に応じて、複数の資料から適切な内容を取り上げて、詳しく書く」という問題に課題が見えるので、課題を解決するための機会を設け発表する場面を設定しています。

(2) 「言語の力」を育てるために

- ・自分がわからなかった言葉について国語辞典を使って意味調べなどを行えるように促すとともに、漢字の正し

い使い方等についても確認しています。

(3)「伝える力」を育てるために

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に「当てはまる」と解答した児童が多かったので、引き続き、ペアやグループ、学級内で自分の考えを伝えられるような機会を増やすとともに、問い返しができるような力もつけていきたいと思います。

取り組みの結果

- ・取り組む問題を全員同一のものであったところから個人の課題意識に応じた問題に取り組めるように配慮したことで、主体的に書くことに取り組むようになり、少しずつ、長い文章で自分の考えを表現する力がのびてきている。
- ・ペア学習を意図的に仕組んできたことにより、自己表現が豊かになってきた児童がいる。その姿を評価することで自信を深め、全体の前で発表する児童が次第に増えてきた。

<算数>

結果から本校の児童の課題として示されたこと

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・比例関係を利用して問題を解決する場面で求め方を記述することができる。・割り算のひっ算についてその仕組みを説明することができる。・長文の説明を参考にして表の中から必要な数値を読み取ることができる。 |
|--|

(1)「基本的な計算の技能」を育てるために

- ・ペア学習等を利用し立式の理由や式の意味を説明し合う機会を多く設けたいと思います。
- ・宿題を利用し、基礎の計算練習と現在の学習内容の復習などの問題をバランス良く学べるように配慮しています。

(2)数量関係の問題に関する力を育てるため

- ・今回の調査で「変化と関係」「データの活用」に関する項目が弱いことがわかりました。そこで、資料から問題解決に必要なグラフや表などの情報を読み取る授業を意図的に行っています。
- ・説明したり友達の考えを読み取る力を伸ばすために、自分で考えた過程を、図や表、言葉を使って説明し合う授業を行っています。

取り組みの結果

ペア学習を意図的に設け、解法の根拠を話し合ってきたことで、「問題が解ければよい」という発想から、「根拠を明らかにすることが大切だし楽しい」という姿勢に変容を見せつつあります。

<得点力にやや差が見えることに対応して>

- ・下の3の③から、本校児童は友だちと互いに意見を交換することを楽しむ姿勢があることがわかります。その力を生かせるように、問題に取り組んでいる場面で、先行して解決した児童と途中でつまづいている児童が互いの考えをやり取りする場面を多く設けることが大切だと考えます。

取り組みの結果

教師が声をかけなくても「ねえねえ教えてよ!」「どこで困ってるの?」というようなつぶやきが教室の中から聞こえるようになってきている。

3 その他授業を行う上で配慮してきたことと現在の様子

子どもが板書をノートできるスピードと量を見極め、できるだけ子どもの発言を要点的に示せるように配慮してきた。その結果、それまでノートをとることをあきらめていた子どもが頑張ってノートをとるようになってきている。

4 生徒質問紙から見てきた本校児童の良いところ

- ・次の10個の質問内容は、全国平均と比べて10ポイント以上上回ったものです。

質問内容
①先生は、あなたのよいところ認めてくれていると思いますか
②困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
③自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
④読書は好きですか
⑤今住んでいる地域の行事に参加していますか
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
⑦学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
⑧国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか
⑨英語の勉強は大切だと思いますか
⑩解答時間は十分でしたか（国語）

<考察>

①について：担任の先生方が温かな眼差しで児童を包んで下さっていることに感謝の思いです。授業の場面でも生徒指導の場面でも、子どもたちの中に「私のことを認めてくれている」という実感があって初めて子どもたちと先生の関係は成立すると思っています。そういう温かな関係を子どもとともに築いてくれていることが本当にうれしいです。引き続き、一人ひとりの児童を丁寧に見つめる中で、その子の良さを見出してほしいと思います。そうすることで児童の自己肯定感が高まることを願っています。

③について：「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という姿勢は、学習や学級作りの基本であると思います。その姿勢が備わっているということは本当にすごい児童たちだと思います。この良さを生かして、授業中に互いの考えをやり取りする場面を意図的に設定していきたいと思います。また、日々起こる学級での問題を自分ごととしてとらえ、自浄力を発揮して主体的により良い学級を作っていくようにしてほしいと思います。

その他：「友達関係に満足していますか」の回答について、当てはまるを選んだ児童が47.4%、どちらかといえば当てはまるを選んだ児童が42.1%、どちらかといえば当てはまらないを選んだ児童が10.5%でした。約9割の児童は友達関係に満足してはいますが、約1割の児童は満足していない状況であることがわかりました。友達に言いたいことが言えなかったり、何かを我慢していたりする児童たちが、安心して学校生活を送ることができるよう、担任も日々の子どもの姿をしっかりと捉えていきたいと思います。加えて、子どもたちが持っている良さを生かして、日頃感じていることを気軽に話し合える学級作りを進めていきたいと思います。

～最後に～

テストの結果として出てくる点数はその子の能力をはかる一つの指標です。しかしながら、その子のすばらしさは到底テストの点数だけでははかれないと思っています。これからの未来を生き抜く力は点数には表れない「人となり」でもあるでしょう。そして、みんなで生活しているからこそ、友だちとの関係の中で色々なことを経験し考え「ひととなり」も磨かれていくのだと思います。私たち教職員は、子どもたちが成長するその過程を傍らから見守り支援していきたいと思っています。

来週の 15 日はマラソン大会です。ご多用中かと思いますが。お時間を作っていただけるようでしたら、どうぞご来校いただきお子様の頑張りに声援を送っていただけたら幸いです。(写真は9日の練習の様子です)

